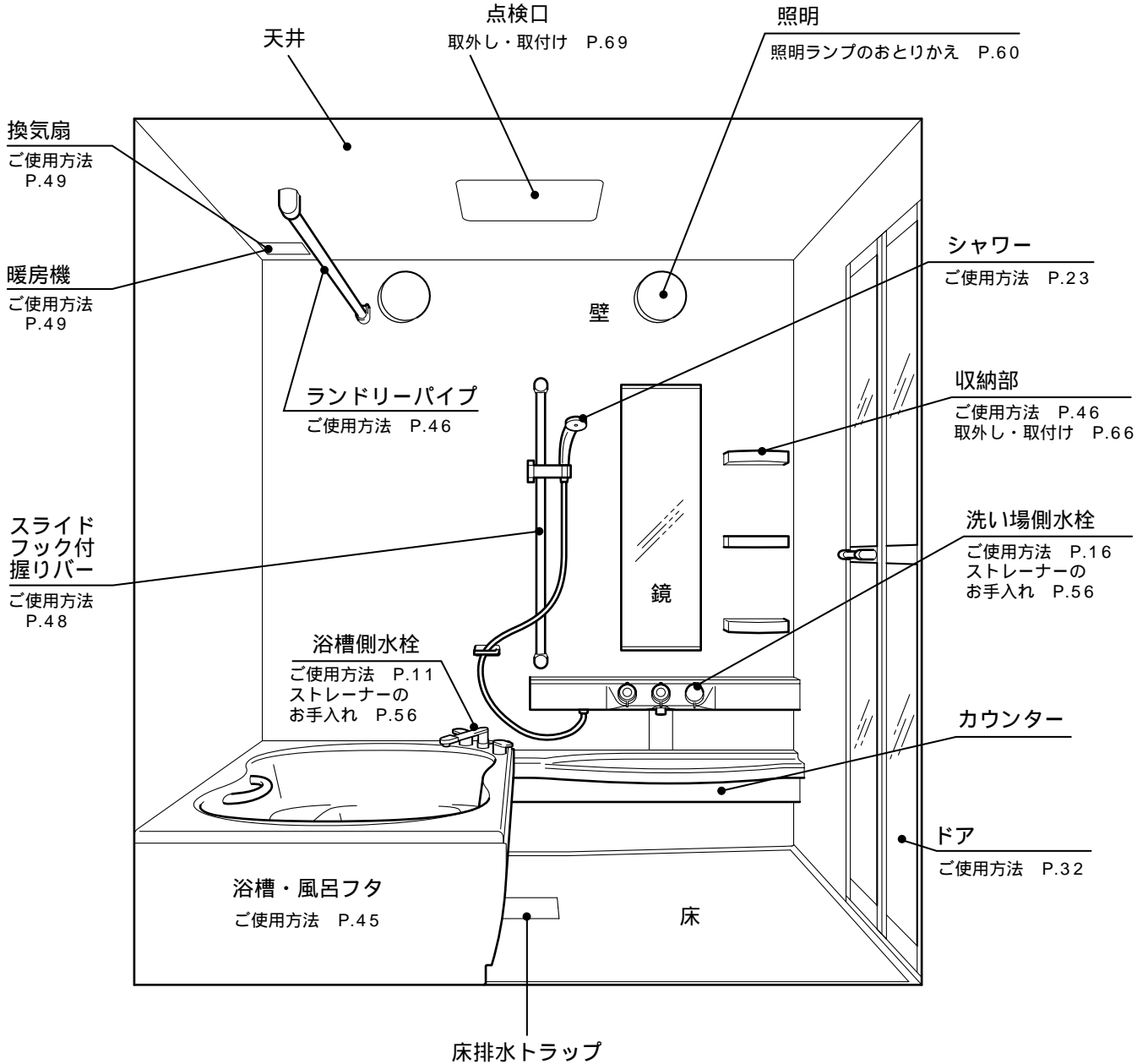


各部のなまえ

各部のなまえと、その説明ページをあらわしています。

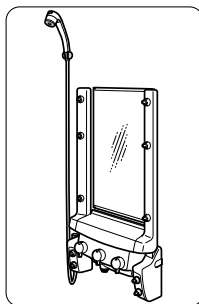
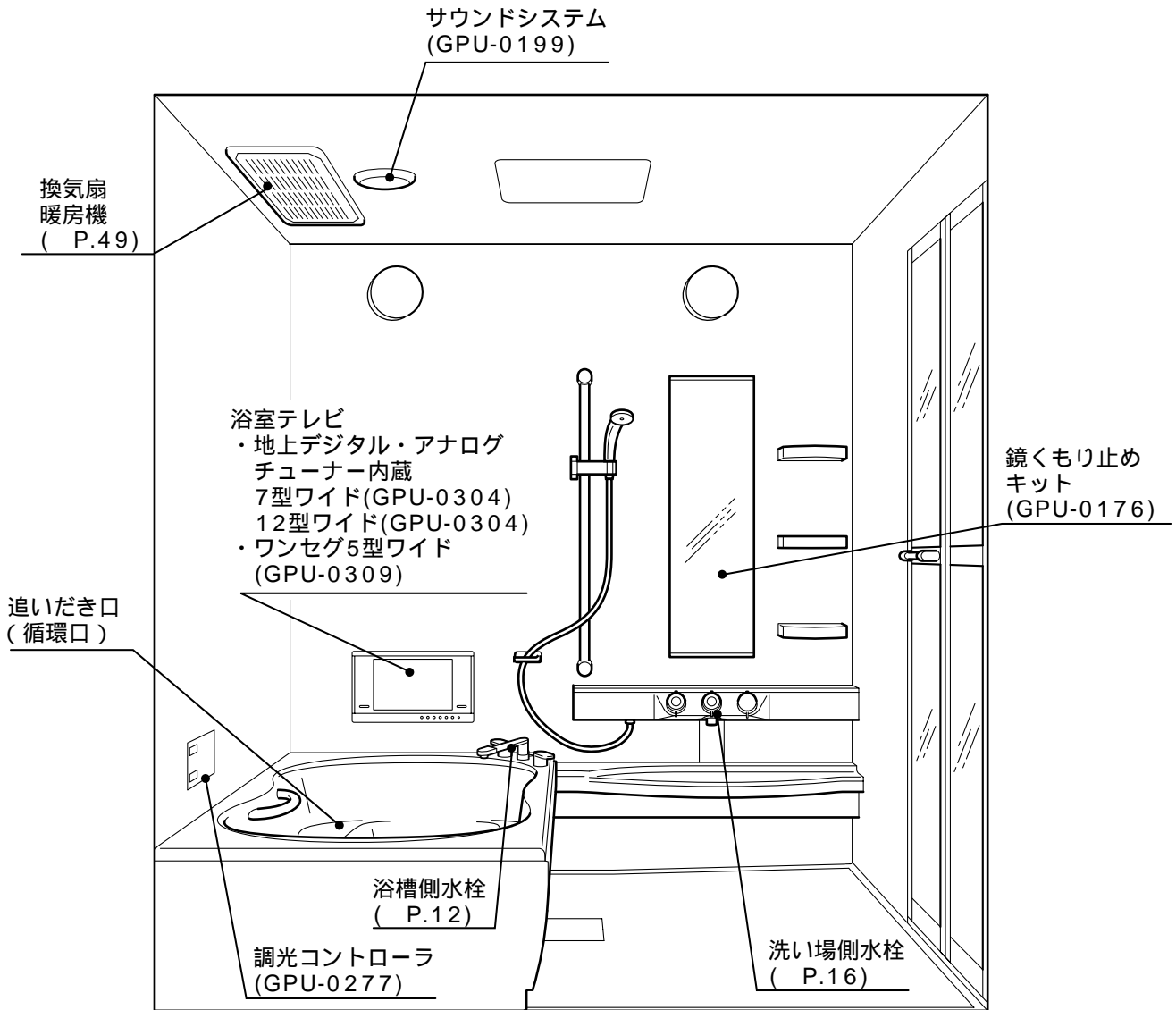
この図は、各商品の組み合わせの一例です。組み合わせが異なったり付属しない商品もあります。お手入れについては「お手入れガイド」をご覧ください。(一部、取扱説明書にも掲載しています。)



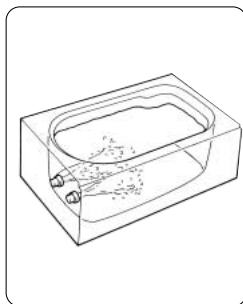
専用の取扱説明書について

以下の商品の使用方法については、各商品付属の「取扱説明書」をご覧ください。

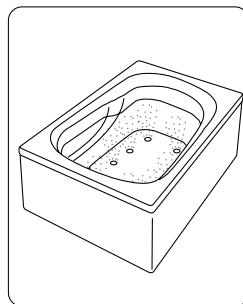
()内の品番は、各商品付属の取扱説明書品番、または取扱説明書品番掲載ページを示します。誤った使い方は事故や故障の原因になります。注意事項をお読みいただき正しくお使いください。この図は、各商品付属の取扱説明書の一覧を表しています。組み合わせが異なったり、組み合わせできない商品もあります。



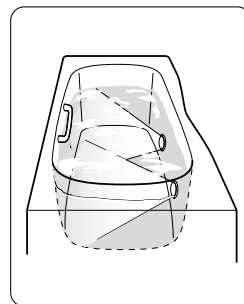
シャワー・ド・バス
(GPU-0164)



アクアジェット
(GPU-0174)



あわりズム
(GPU-0093)



ヒーリングライト
(GPU-0278)



安全上のご注意（必ずお守りください）

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

水栓、換気扇、アクアジェット等の専用取扱説明書が商品に付属である場合は、専用取扱説明書および本体表示に従ってお使いください。
本体表示（ラベル）は、はがさないでください。






表示マークについて

誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示マークで区分し、説明しています。

-  **警告** 「取扱いを誤った場合に、使用者等が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
-  **注意** 「取扱いを誤った場合に、使用者等が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」


絵表示について

お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。


-  「注意しなさい！」（上記の『警告』、『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）
-  「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
-  「分解してはいけません！」
-  「指示した場所に触れてはいけません！」
-  「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

警告

分解・修理・改造をしない


-  分解・修理・改造はしないでください。
破損（割れ、ねじの脱落等）したまま使用しないでください。
感電やケガ、故障する恐れがあります。

風呂フタ


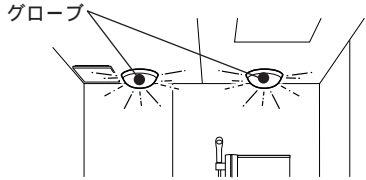


-  風呂フタを設置する場合は、風呂フタの上に体重をかけたり、乗らないでください。
フタが外れて、ケガやヤケドをする恐れがあります。




水栓や換気扇等の取扱い

-  水栓や換気扇等は、それぞれの商品に付属の取扱説明書および本体表示に従ってお使いください。
誤った使い方をすると、ヤケドや感電・ケガや故障の恐れがあります。

照明や換気扇

-  照明器具や換気扇等の電気製品は、グローブやルーバー等のカバーを外して使用したり、直接水をかけないでください。
火災や感電・故障したり、電球が割れてケガをする恐れがあります。

-  照明器具にタオル等をかけないでください。
過熱して火災になる恐れがあります。
-  照明器具のランプ交換や換気扇等のお手入れをする場合は、必ず電源（スイッチ）を切ってから行ってください。
感電やケガをする恐れがあります。

アクアジェット

-  ・安全カバーやフィルターが外れたり破損したままで使用しないでください。
・使用するときは、吸込口や噴射口をふさがないでください。
・浴槽内にもぐらないでください。
・お子さまだけで、入浴中の場合は運転させないでください。
髪や身体の一部が吸い込まれて、おぼれたりケガをする恐れがあります。

安全上のご注意（必ずお守りください）

警告

浴槽へのお湯張り



浴槽排水栓は、すき間がないように閉めてください。
お掃除等で排水コアを取り外した時は正しくはめ込んでください。（P.10参照）
また、追いだき機器をご使用の場合、水を循環口より10cm以上入れてください。
追いだき機器をご使用の場合排水栓にすき間があると、湯が抜けて空だきによる火災や機器が故障する原因となります。

幼児や身体の不自由な方の入浴



幼児や身体の不自由な方だけで入浴させないでください。
また、付き添って入浴される場合は、幼児や身体の不自由な方から目を離さないでください。
おぼれたり、ケガやヤケドをする恐れがあります。

幼児だけで遊ばせない



浴室内で幼児だけで遊ばせないでください。
おぼれたり、ケガやヤケドをする恐れがあります。

注意

自分で取り付けないで



器具の位置を変えたり、新しく取り付けるときは、必ず販売店等にご相談ください。
誤った取付けをすると思わぬ事故や漏水の恐れがあります。



浴槽内握りバーや握りバーがグラついたり、固定がゆるんでいるときは、必ず販売店にご連絡ください。
そのまま使用されるとケガや破損の恐れがあります。



ご自分で壁に穴をあけて、握りバーやタオル掛等を取り付けしないでください。
漏水の原因となります。

無理な力を加えないで



窓枠の上に植木ばち等の重いものを置いたり、窓枠に突っ張りブラインド等で押し広げる力を加えないでください。
破損や漏水の原因となります。



カウンター、水栓カウンター、出窓カウンターに無理な力を加えたり乗ったりしないでください。
破損や漏水する原因となります。



収納棚に無理な力を加えないでください。
破損しケガをする恐れがあります。



浴槽に飛び降りる等、無理な力を加えないでください。
浴槽が破損してケガをしたり、漏水する恐れがあります。



エプロンに無理な力や衝撃を加えないでください。
エプロンが割れたり、脱落してケガをする恐れがあります。

溶剤、薬品に注意



排水口にシンナー等の溶剤や薬品類を流さないでください。
漏水の原因となります。



以下の水や入浴剤は使わないでください。
・水道水以外（水道水とは水道事業体が供給する上水をいいます。）
・硫黄系、酸（炭酸水素塩（炭酸水素ナトリウム等）、フマル酸を含む入浴剤等）
・アルカリ系の入浴剤
・溶剤、オイル、アルコールを含む入浴剤
・粉末でお湯に溶けにくい入浴剤
浴槽・床・カウンター表面の変色やパッキン、目地材やゴム部品等を傷め、漏水の原因となります。



固形、または粉末の塩素系洗浄剤・漂白剤を使ったり、近づけたりしないでください。
金属やゴムが腐食、劣化して漏水の原因となります。



化粧品、アロマオイル等の薬品が付いた場合は、すぐに水できれいに洗い流してください。
付着したままの状態では置いておくと漏水や変色、割れ等の原因となります。

目地のキズに気をつけて



床・壁・天井・窓枠等の継目部分の目地材（または、コーキング材）をはぎ取ったり、キズ付けしないでください。
漏水の原因となります。



目地やコーキング材が切れたり、はがれている場合は修理を依頼してください。
漏水の原因となります。

浴室内はすべりやすくなっています



浴室内は石けん液や入浴剤等ですべりやすくなっています。ゆっくりとした動作を心がけてください。
転んでケガをする恐れがあります。

安全上のご注意（必ずお守りください）

点検口

- 点検口は設備点検時以外は開けたり、中に物等を置かないでください。
火災・感電や漏水、またフタが外れ、落下してケガをする恐れがあります。
- 点検口に無理な力や衝撃を加えないでください。
点検口が割れたり、脱落してケガをする恐れがあります。

お手入れのときは必ずゴム手袋で保護してください

- お手入れのときは必ずゴム手袋等で保護してください。
突起部分やすき間等でケガをする恐れがあります。

浴槽・風呂フタ・追いだき口・カウンター

- 浴槽やカウンターの上に乘って、お掃除や電球交換を行わないでください。
不安定な作業になりますので、転倒してケガをする恐れがあります。



- 付属の風呂フタ以外をお使いになる場合は、風呂フタは必ず浴槽に合ったものを選びください。
フタが外れて、ケガやヤケドをする恐れがあります。

- 追いだき循環口に足をかけないでください。
追いだき循環口が外れ、転んでケガをしたり、ヤケドをする恐れがあります。

換気扇

- 換気扇や暖房機運転中はルーバーを外してファンやヒーターに触れたり、指や棒を入れないでください。
感電やケガ・故障の恐れがあります。



ぶつけないで

- ものをぶつける等、鏡や壁・照明カバーへの衝撃はお避けください。
表面にキズが付いたり、割れてケガをする恐れがあります。
- スライドフック付握りバーをご使用の場合に、スライドフックを鏡や壁にぶつけないでください。
スライドフックや壁にキズが付いたり、鏡が割れてケガをする恐れがあります。

ドア

- ハンドルが外れかけている場合やとびら端部の部品が外れた場合は、ドアを開閉しないでください。
浴室に閉じ込められたり、ケガをする恐れがあります。
- ドアによりかかったり、無理な力を加えないでください。
不意にドアが開き転倒したり、面材が割れてケガをする恐れがあります。
- とびらの周囲に手を触れたままドアを開閉しないでください。
指をはさむ等ケガをする恐れがあります。特に小さなお子さまにはご注意ください。

鏡・収納部

- 鏡に熱湯や冷水をかけないでください。
急激な温度変化は鏡破損の原因となり、ケガをする恐れがあります。
- 高い位置の収納部にガラス容器等割れやすいものは収納しないでください。
誤って落下させますと割れてケガをする恐れがあります。

シャワーヘッド・シャワーフック

- シャワーヘッド・シャワーフックに無理な力を加えないでください。
破損してケガをする恐れがあります。

目皿は正しくはめてお使いください

- 目皿は正しく設置してご使用ください。
また、目皿裏面のゴムを外して使用したり、目皿に体重をかけないでください。
足を踏み外したり、すべって転びケガをする恐れがあります。



冬期凍結の恐れがある時期

- 冬期凍結の恐れがある時期（浴室内温度が零度以下へ低下）に長期間使用しない場合は、トラップ内の水を吸い出して不凍液と入れ替えてください。不凍液が入手できない場合は、ヘアキャッチャーや防臭キャップを外してから不要になったタオル等をトラップ内に押し込んで、排水からの臭いがあがってこないようにしてください。
トラップ内の水が凍結し、トラップが破損、漏水する恐れがあります。

アクアジェットの使用について

- 次の方はアクアジェットを使用しないでください。妊産婦・心臓疾患のある方・高血圧の方・泥酔者・睡眠薬を服用している方・体力の衰えている方、持病のある方。
身体に異常を起こす恐れがあります。
- アクアジェットは15分以上使わないでください。
心臓に負担をかける恐れがあります。

故障をおこさないためにお守りください

お願い

使用用途について

この商品は一般家庭用です。業務用等一般家庭用以外で使用しないでください。
寿命が著しく短くなる恐れがあります。

重いものや硬いものを落とさないで

重いものや硬いものを落とさないでください。
キズの原因となります。



金属類を放置しないで

ヘアピン・カミソリの刃等を放置しないでください。
サビが付着して取れなくなる場合があります。

火を近づけないで

タバコ等の火気を近づけないでください。
キズ・ヒビ割れの原因となります。

風呂水清浄剤について

風呂水清浄剤（錠剤タイプ）を使用する際は、浴槽底に滞留しないようによくかきまぜてください。
排水栓が劣化・腐食する場合があります。

鏡くもり止めキットについて

鏡くもり止めキットは鏡以外には塗らないようにしてください。付着した場合はすぐに水で洗い流してください。
表面が変色する恐れがあります。

化粧品（毛染め剤等）の使用について

浴室内で毛染め剤やマニキュア除光液を使用される時は、必ずシート等で床等を保護してください。
付着するとシミになる場合があります。

吸盤付製品の使用について

吸盤等軟質の樹脂製商品は、樹脂部品やLパネルに付けたままにしないでください。
変色する恐れがあります。

アクアジェットの使用について

アクアジェット付の浴槽では、浴槽内で石けん・ボディシャンプー類を使用しないでください。
多量の泡が発生するとともに故障の原因となります。

風呂イス・洗面器について

脚が金属等硬い材質の風呂イスや洗面器は使わないでください。
床にキズが付いたり、表面がケズれる原因となります。

排水トラップの水について

排水トラップの水（封水）が蒸発等により減少、または無くなっている場合は、排水トラップに水をためてください。

排水トラップの水（封水）が無くなると臭気・害虫の侵入やガスにより金属・メッキ部品のサビの原因となります。

すのこの等の使用について

すのこ、バスマット等を洗い場に敷いた後は、水洗いして壁に立てかけてください。
そのままにしておくとかび、変色、ニオイの原因となります。

入浴剤の使用について

入浴剤入りのお湯を浴槽に入れたまま、またはカウンター、床等に付いたまま長時間放置しないでください。
表面が変色、変質する恐れがあります。

浴槽で漬けおき洗いをしないで

浴槽で漬けおき洗いをしないでください。
浴槽が変色したり、劣化する恐れがあります。

浴槽浄化保温機について

浴槽浄化保温機（24時間バス）に該当する機器は使用しないでください。
継続して使用すると浴槽表面の荒れ・退色等を著しく促進する場合があります。

シャワーヘッドを浸さないで

シャワーヘッドを浴槽・洗面器等に浸さないでください。
一度吐水された湯水等が配管に逆流する恐れがあります。

ジェルステッカー・ジェリーグミは張らないで

ジェルステッカー・ジェリーグミ等は鏡、タイル（目地を除く）窓（ガラス面のみ）以外に張らないでください。
色が付着して取れなくなる恐れがあります。

冬期凍結の恐れがある場合について

凍結の恐れがある場合は、水栓、アクアジェット、あわりズム各々の取扱説明書に従って必ず水抜きをしてください。

冬期凍結の恐れがある場合は、浴槽内の湯は排水してください。

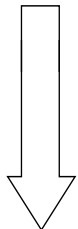
追いだし付給湯器をご使用の場合は、給湯器の取扱説明書に記載の凍結防止処置を行ってください。アクアジェットをご使用の場合は、給湯器等に関係なく浴槽内の湯は必ず排水してください。破損や故障の原因となります。

ラジオの使用について

照明器具にラジオを近づけると雑音が入ることがあります。
このような場合は、雑音が入らない位置まで、ラジオを離して使用してください。

さあ、お風呂に入りましょう

入浴前



1

給湯器でお湯の温度を設定する

給湯器の設定温度は50～60 に設定してください。

給湯器の温度調節等は給湯器の取扱説明書をご覧ください。

2

排水栓を閉める

3

お湯をためる

本書9ページをご参照ください。

入浴剤や温泉水、風呂水清浄剤について

入浴剤や使う水（温泉水等）によっては、浴槽・床・カウンター表面の変色やパッキン、目地材やゴム部品等を傷め、漏水の原因となることがあります。

以下の水や入浴剤は使わないでください。

- ・水道水以外（水道水とは水道事業者が供給する上水をいいます。）
- ・硫黄系、酸・アルカリ系の入浴剤
- ・溶剤、オイル、アルコール、塩分を含む入浴剤
- ・お湯に溶けにくい入浴剤（粉末等）

入浴剤（粉末等）は、底に滞留しないようによくかき混ぜてください。

また、入浴剤入りのお湯を浴槽に入れたまま、またはカウンター、床等についたまま長時間放置しないでください。

入浴剤の注意書きをよく確認し、浴槽や風呂釜、機器への影響が記載されているものは使わないでください。

不明点は入浴剤メーカーにお問合せください。

入浴剤を使う場合は浴槽・機器・風呂釜等を定期的にお掃除してください。

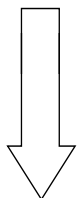
入浴剤の種類によっては浴槽内、床等、すべりやすくなることがあります。

風呂水清浄剤（錠剤タイプ）を使用する際は、底に滞留しないようによくかき混ぜてください。

排水栓が劣化・腐食する場合があります。



入浴中



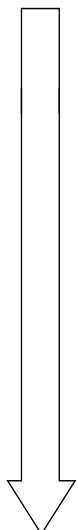
ホッとできる入浴のために、本書をお読みのうえ正しくお使いください。

非常時のドアの外し方

浴室のドアは、非常時等に浴室外側からドアを外すことができます。本書34ページをご参照ください。



入浴後



次の人にお湯を残しておく場合

風呂フタをしておくと、お湯がさめにくくなります。

翌朝までお湯を残しておく場合

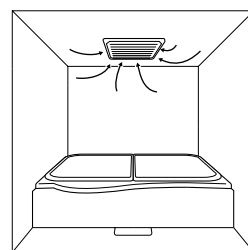
翌朝までお湯を残しておく場合は、湿気を防ぐため風呂フタをして換気します。（ ）

換気する

換気扇を回すか、窓を開けて十分に換気します。床やカウンター等の水は軽くふきとるとさらに効果的です。

気温が低く水道管凍結の恐れがある場合

浴槽のお湯を排水し、追いだき配管の水抜き、または追いだき配管のヒーターの電源を入れます。水栓の水抜きをします。（本書26ページをご参照ください。）



浴室のお手入れはガンコな汚れを作らないことが大切です。毎日の汚れや汚れの原因はその日のうちに落としましょう。詳しくは「お手入れガイド」をご覧ください。

さあ、お風呂に入りましょう

浴室での事故が意外と多いのをご存知ですか？

悲しいことに意外と多い浴室での事故。実は、ちょっとしたことで防げるものがたくさんあります。お風呂でリラックス&リフレッシュするために少しでも気をつけていただきたいポイントを紹介します。

詳しくは国民生活センターHPをご覧ください。

「重症になりやすい浴室での事故」(<http://www.kokusen.go.jp/kiken/contents240/index.html>)

「危害情報からみた高齢者の家庭内事故」(http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20030509_1.pdf)

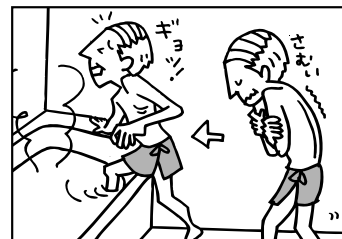
「家庭内事故に関する調査報告書」(http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-19990604_3.pdf)

冬の入浴、お年寄り・持病のある方は...

寒い冬に暖かいリビングから寒い洗面室、浴室へ。冷えた身体に熱いお湯。そのたびに血圧・脈拍は大きく上下して、身体に大きな負担となります。お年寄り、持病のある方がいる家庭では以下の点に気をつけてください。

① 部屋による温度差を小さくする。

例えば... 入浴前は洗面室や浴室も暖めましょう。シャワーをフックにかけたまま浴槽にお湯をためたり、入浴の少し前に風呂フタを外しておくことで浴室が暖まります。暖房機付の場合は、入浴前に暖房運転をします。



② 熱めのお湯や全身浴、30分以上の入浴はやめましょう。

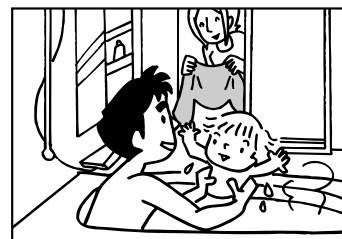
例えば...ぬるめのお湯で半身浴。

小さなお子さまから目を離さないで

小さなお子さまの行動は予測できません。小さなお子さまと入浴するときは目を離さないようにしてください。小さなお子さまがいる家庭では以下の点に気をつけてください。

① 小さなお子さまだけで浴室に入らせない。

例えば... 入浴後は浴槽の湯を抜いておきます。また浴室のドアは必ず閉めて、錠付のドアは浴室外側から施錠することをお勧めします。



② 小さなお子さまが入浴している間は目で、耳で、注意して見守りましょう。

入浴中、目を離さなければならない時はなるべく短くしてお子さまに歌やお話をしてもらいましょう。

浴槽内で居眠りをしないで

浴槽内でウトウト...。溺れる恐れがあるばかりか、結果的に長時間の入浴になり、身体に負担がかかります。

① 浴槽内で眠くなったら無理をしないで早めに浴槽から出ましょう。



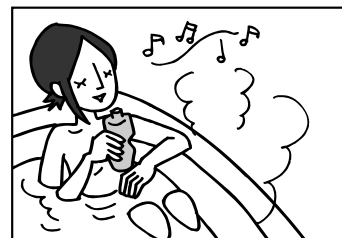
半身浴のススメ

半身浴は、全身浴に比べて心臓に負担がかからず、お年寄りや持病のある方はもちろん健康な方にもお勧めの入浴法です。また、半身浴は汗とともに体の中の老廃物が排出され、新陳代謝が活発になります。

半身浴の入浴方法

① 浴槽のお湯の温度はぬるめ(38~40℃)にします。半身浴でも熱いお湯では身体に負担をかけます。

② 20~30分かけて入りましょう。(お年寄りは時間を短かめに)汗がじんわり出て老廃物を外に出してくれます。持病のある方は医師の指導に従ってください。



(注意)

無理をしない。

こまめに水分補給しましょう。(常温に近いものがお勧めです。)

体調の悪い時や、飲酒されている方はやめましょう。

冬期等寒く感じる場合は肩にタオルをかけるか、時々かけ湯をしましょう。